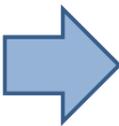


<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>聴覚障がいのある幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。</p> <p><b>【知】学び合う子</b> <b>【徳】かなえる子</b> <b>【体】やりぬく子</b></p> <p>めざす子ども像</p>	<p>今年度の基本方針</p>	<p>&lt;基本方針&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもが主役となり「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業づくり・保育づくり</li> <li>2. 学びを深めるためのICT活用の推進</li> <li>3. 自分のきこえを知る・自立活動の充実</li> <li>4. 自分のよさを知り、のびす、生かす取り組みの推進</li> <li>5. からだを動かす楽しさを知り、からだづくりを生活の中に位置づける</li> <li>6. 子どもと向き合う時間を充実するための業務改善</li> </ol>		<p>&lt;学部テーマ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚部…「にこにこ わくわく なかよし」</li> <li>○小学部…「毎日がアップデート レッツ・チャレンジ」</li> <li>○中学部…「レッツ・エンジョイ」</li> <li>○高等部…「しあわせの力」</li> <li>○支援部…「Let's go for it together 一丸となってやるぞ」</li> </ul>
---------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

年 度 当 初				評 価 結 果 (2月)			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	改善方策	
[知]学び合う子	(幼) 体験的な活動を通して、興味や関心を育て思いを表現しようとする力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいことに興味関心がある。</li> <li>・自分の思いを伝えたい気持ちがある。</li> <li>・気持ちを表現するのが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話やキューサイン、身振り等を使って、のびのびと自分の思いを伝えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な活動ができる機会を設定し、きっかけとして言葉のイメージを広げる。</li> <li>・身近な事象への興味や関心を育て、思いを表現しようとする心情を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校祭に向けての劇遊びや汽車ごっこ、お店ごっこで、見通しをもって活動に参加できるように、きっかけ作りや展開を大切にした遊びに取り組んだ。</li> <li>・汽車ごっこやお店ごっこでは、教員や友だちの様子を見たり相手の話を聞いたりして考え、自分の気持ちを表現しようとする姿が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活全体を通して語彙の獲得や拡充に向けて指導や支援の機会をつくり、思いを表現する仕方の手本を示しているようにする。</li> <li>・なかよしタイムや自由遊びの年間計画を活用しながら季節の遊びや毎年積み上げていく活動等計画的に進めていく。</li> </ul>	
	(小) 意見や気持ちをお互いに伝えながら、ともに学び合う子どもの育ち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい・わかりたいという気持ちが高まっている。</li> <li>・自分の意見を積極的に伝えようとする。</li> <li>・伝えきれない、まとめられないなど、語彙や文法・読解ということばの課題がある。</li> <li>・タブレットで調べ学習をすることはできるが、学習での活用は不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性豊かな言葉を身に付け、自分の意見や気持ちを伝えながらともに学び合う子</li> <li>・比較・整理しながら思考し、物事を論理的に捉える子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五感を使って語彙を獲得するための適切な支援の工夫と、獲得した語彙を使ってイメージしながら考えたり伝え合ったりする場面を設定する。</li> <li>・比較・整理しながら思考することを促すために、タブレットを活用するなど、ICT機器の活用を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の中で自分の考えを伝える際に、学習中のキーワードを使いながら積極的に発言する姿が増えた。また、問いに対する答えに理由や根拠が加わるが見られたり、複数人数での学習では話し合いにより学習が進んだりするなど、授業に発展が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業において充実が見られてきたが、生活に活かす場面が少ない。生活との結びつきを感じられる学習の工夫が必要である。ICTの活用は、学年や教科のばらつきがある。目的の応じて、よりたくさんさんの活用が望まれる。</li> </ul>	
	(中) 学習のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を持って学習に向かう姿</li> <li>・自分の思いを伝える姿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールややり方が明示してあると、学習や活動にスムーズに取り組む姿が見られる。しかし、予習や復習をはじめ、宿題の提出や忘れ物をした時の対応などについては進んで行動することが難しく、定着に課題がある。また、思いを持っているが、適切な言葉で伝えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の意義を理解し、学習に向かう姿勢が身につけている生徒。</li> <li>・自分の思いを伝えることのできる生徒。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のめあてを意識し、その学習の内容が理解できたか振り返ることができる時間を各教科の中で設定する。</li> <li>・宿題を忘れた場合は昼休憩などを活用して取り組み、提出する習慣を身に付けるようにする。</li> <li>・テスト期間などに家庭学習の仕方やその意義について学ぶ機会を設定する。合わせて、家庭にもその様子を学部通信などで伝えるようにする。</li> <li>・「伝え方」が分かるよう、場面ごとに伝え方の例を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題をしなかったり、忘れてたりして授業に向かう生徒がいた。宿題を忘れたら昼休憩や放課後に実施することを徹底した。長期休業後に宿題を提出できなかった生徒に対し、提出計画を立て、声かけを続けることで提出することができた。</li> <li>・テスト前には学部便りで勉強方法を伝えたり、学活の時間を活用して長期休業の学習計画を教師と一緒に立てたりと生徒の実態に合わせて情報提供などを行うようにした。</li> <li>・各クラスで、実際の場面を捉え「相手にどう伝えるか。」や適切な表現方法について指導を続けている。スクールソーシャルワーカーにも協力を仰ぎ、第三者の意見を聞く学習にも取り組んだ。相手の気持ちを考えた伝え方をするには、教師が説明を加えるなどの支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習方法が分からない生徒に対して(特に1年生)学部や学級で学習をした後、テスト前、長期休業前などに個別に学習計画を立てる時間を設ける。</li> <li>・相手に自分の気持ちをうまく伝える方法について引き続き学習を継続するとともに、一人ひとりの対人スキルを育てていく。「良いこと見つけ」を進展させ、生徒自身「何が伸びたのか」を理解できる取り組みを考えて実践する。(例「○○スキルマイスター」など)</li> </ul>
	(高) 集団参加 協働 ICT機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や仲の良い友だちとの1対1の場面では自分の意見を言うことができるが、集団の中ではなかなか自分の意見を言うことができない。また、他者の気持ちを想像することや異なる意見をすり合わせてより良いものにすることができにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の意見を受け止め、自分の考えを修正したり、お互いの意見を合わせて良い結論を見つけようとしたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人で考える場面や小グループで話し合う場面を設けてから、集団の活動を設定する。また、小グループで話し合う際には、ホワイトボードやICT機器等を利用して、話し合ったことを皆が共有できるような手立てを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団での話し合い活動では、事前にワークシートを記入したり小グループで話し合いをしたりしてから全体で話し合う場を設けることで、みんなが意見を出し合い、活発な意見交換が行われた。また、なぜそのように考えるのか、理由をつけて説明ができる場面も4月当初より確実に増えた。</li> <li>・iPadを家庭で使えるように環境整備を行った。夏季休業中やコロナ感染予防のため自宅待機中の際には、グーグルクラスルームを活用してリモートでの話し合い活動や夏季補習、授業を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が関わる授業場面においては、年度当初の方策で目標は達成できつつある。引き続き方策を実施し、学校祭に向けた話し合いや生徒会活動などで集団で話し合う場面を設定しながら、よりお互いに学び合える生徒集団づくりを行っていく。</li> <li>・教員研修を実施しながら、情報機器を効果的に用いた授業等により一層取り組んでいく。</li> </ul>	
1. 社会で生き抜く力を身につける	①「わかる」「できる」「たのしい」と感じる授業づくり	②学びを深めるためのICT活用の推進	(教務部) 円滑な学習活動、行事運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児児童生徒は学習活動に素直に取り組むものの、受け身の姿勢が強い。また、個別の教育支援計画や年間指導計画を作成しているが、それらを十分活用できているとは言い難い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児児童生徒が主体的に学んでいる授業が展開されている。</li> <li>・授業や行事に関して各教科、各学部間の連絡調整を密に行う。</li> <li>・個別の教育支援計画や年間指導計画の作成に十分な時間がとれるよう設定する。</li> <li>・個別の目標や評価を共通理解する機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や行事に関して各教科、各学部間の連絡調整を行った。時数の足りる教科を補うよう工夫し、授業時数確保に努めた。</li> <li>・個別の教育支援計画や年間指導計画の作成に十分な時間がとれるような日程を設定できた。</li> <li>・個別の目標や評価を共通理解する機会として、ケース会議を設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初より授業時数確保についての意識を高くもつ。</li> <li>・ケース会議の充実を図り、評価が次の指導に生かせるような流れをつくる。</li> </ul>

年 度 当 初				評 価 結 果 (2)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
	(教育研究部) 子どもが主役となる授業づくり 教科学習や遊びを通して、主体的な学びの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見を持って発表することができるが、子どもどうしが話し合う経験がまだ十分ではない。</li> <li>iPadを使って調べたり電子黒板で共有したりするが、電子黒板と黒板の使い分けに課題がある。</li> <li>主役になる、主体的な学びの子どもたちの姿が明確になりつつある。</li> </ul>	子どもが自分の意見を伝え、教師や友だちとやり取りをして考える。試行錯誤しながら、課題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修や学部研究会、サークル研究会などで主体性を育てるための支援方法を学ぶ。</li> <li>一人一授業の実施方法を改善し、お互いの授業を見合う機会を増やす。</li> <li>毎時間の「めあて」と「ふりかえり」の実施をする。</li> <li>情報部の教職員と協力し、iPadやリモートを使って授業や研修をする方法を模索する。</li> <li>評価の仕方の方向性を共通理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科指導サークル研究会では全職員が協力して準備し運営することで充実した会を実施することができた。中国地区の他県からも参加していただき、主体的に学ぶ子どもを育てるための指導や支援方法について活発に意見交換をした。講演会では生活経験の中から引き出す学びなど指導や支援の工夫について学ぶことができた。</li> <li>キャリア教育、重複障がい教育、自立活動サークル研究会への参加を呼びかけ他県の参加者と情報交換をすることができた。特にキャリア教育では、キャリアパスポートの活用方法について学ぶことができた。講演では合理的配慮について理解を深めることができた。</li> <li>一人1授業を参観することで、子どもとのやりとりや支援方法の工夫について参考にし、授業力を向上させることができています。</li> <li>鳥豊スタンダードを定期的に記入し、振り返りをした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究会を通して学んだことを今後の授業づくりに活かしていく。</li> <li>会の運営で培ったチームワークの良さを活かすためにも早めに計画を立て、他分掌と連携し、協力体制を作る。</li> <li>引き続き、研修会などの情報を提供し、参加しやすい環境を作る。</li> <li>授業を公開し、参観を呼びかけることで互いに情報共有し授業力の向上に努める。</li> <li>評価の仕方について全体で取り組むことも必要だと考える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥豊スタンダードの活用について、年度初めに丁寧に確認する機会を作る。</li> </ul>
	(情報部) 学びを深めるためのICT活用の推進	<p>幼児・児童・生徒の学びが深まるよう、各教師が授業において、タブレット端末やスライドショー等のアプリケーションを有効に活用する機会は増えてきている。一方、Google for Education等、近年導入されたシステムを効果的に使い授業を行う場面は少ない現状がある。また、オンライン授業やオンデマンド教材などについて教師が学ぶ機会や活用の機会も少ない現状がある。</p>	<p>幼児・児童・生徒の学びが深まるよう、ICT機器やアプリケーションを授業において活用している教員が8割以上となる。</p>	<p>ICTを活用した授業を行う教職員のスキルが向上するよう、定期的にICT機器とアプリケーションの使い方・活用法に関する研修やオンラインやオンデマンドの活用に関する研修を催す。校内の職員が講師となるだけでなく、ICT支援員やその他専門の機関からも講師を招き、充実した研修になるようにする。また、ICT活用等に関する情報が広く教職員に周知していき、定期的に情報を発信していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内教職員に対してICT機器の活用等に関する定期的な学習会を持った。参加した各職員が課題意識を持って参加することができ、良い学びの機会となった。</li> <li>GIGAスクール推進課の協力を得て、情報研修を実施した。基礎的内容から応用的な内容まで幅広く学習できた。目標としている教職員のICTスキル向上の一助となった。</li> <li>学校の情報発信の一環で、学校YouTubeの運営を再開した。今後も定期的に情報発信を行っていく。</li> <li>幼児・児童・生徒がどの段階でどのような学習を行うのかの見通しを持って学習が行えるよう、ICT教育全体計画の策定を行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器等の研修会を継続実施していきたい。参加できなかった職員にも情報通信として発信していく取り組みを継続して行う。</li> <li>学校ホームページや学校YouTubeを活用し、継続して情報発信・啓発に努める。</li> <li>策定したICT推進計画に基づいて、ICT教育を進めていく。</li> </ul>

年 度 当 初				評 価 結 果 (2)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
	(幼) 友だちと一緒に遊ぶ中で安心感を持ち、満足感や達成感を味わい、人間関係の基礎を形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな遊びがある。</li> <li>教師の仲立ちで友だちや他者と関わることを好む</li> <li>聞こえにくさにより、情報量が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しく遊んだり活動したりする中で、自分の良さや友だちの良さに気づき、自分からかかわろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友だちとかかわる中で、安心できる環境をつくり、満足感を感じられる活動を通して、自己肯定感を高める。</li> <li>自分なりのめあてを持ったり、役目を果たす喜びを感じたりできる活動を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心して自己表出できるよう、子どもの思いをまずは受けとめるようにした。木の実を使った遊びや正月遊び等材料や道具等の環境を整え、友だちの様子を参考にし繰り返し遊ぶことができるようにした。コマ回しや縄跳び等に繰り返し挑戦することでできるようになり、達成感を味わうことができた。</li> <li>お店ごっこや汽車ごっこの中で役割を設定し、教員や友だちの姿に憧れの気持ちを持ち、手本にしながら最後までその役割を果たす経験をすることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して遊ぶことで、満足感や達成感が味わえるように、環境をどのようにして整えていくか教材研究を深め、学部で共通理解を進める。</li> <li>機会をとらえて、教員が子どもの仲立ちをしながら関わる力を育て、子ども同士の関わりにつなげていけるようにする。</li> </ul>
	(小) <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことに目を向け、自分を知るとともに、「自分が好き」という気持ちの育ち</li> <li>多方面に目を向け、得意な事や好きな事を見つけている姿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自信をもって他者と関わる児童が徐々に増えている。</li> <li>なりたい自分のイメージを持っている。</li> <li>生活経験が少なく、身の回りへの関心が広がりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が好きと感じる子</li> <li>得意なことや好きなことをみつけ、楽しく取り組む子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の学習の中で、自分のことを振り返る学習を工夫し、その積み重ねを記録に残し自己理解を促す。</li> <li>好きなこと、得意なことを見つけ、作品作りやコンクール、検定などに挑戦する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の学習でまとめた自分のきこえや補聴器・人工内耳のことを、2名の児童が居住地校交流の中で堂々と発表した。その他、宮ノ下小学校4年生との学校紹介、自立活動で自分の気持ちや行動を振り返る学習、日々の教師との会話を通して、自己理解が徐々に深まった。</li> <li>学習の中で、自分の得意なこと不得意なことを自覚することが多くみられた。苦手な学習であっても、「先生に教えてもらいながら頑張っているから大丈夫」「難しいけどあきらめずに頑張る」などの発言が聞かれた。各自、自分の成長を意識し、自己肯定感が全体的に上がっているように感じる。</li> </ul>	A	<p>次年度は、1年～4年生の4名であり、また、重複学級の児童が半数となる。それぞれの発達段階に合わせ、児童が興味をもって取り組める活動を検討することが必要である。</p>
	(中) <ul style="list-style-type: none"> <li>良いところ見つけ</li> <li>色々な生き方について知る進路学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちのことを意識して、互いのことを思いやる気持ちを持っているが行動に移すことには教師の声かけなどが必要である。自分の良さに気づいておらず、自信がないため、進んで行動することよりも受け身の姿勢が多くみられる。</li> <li>自分の進路について、自分のこととして捉えることが難しい生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の良さを知り、将来の目標を持って自分の課題に取り組む生徒。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帯自立活動等の時間を活用し、互いの良いところやリフレーミングの学習をし、自分の良さを見つける学習を設定したり、他の生徒の前で説明や発表をしたりする機会を設ける。</li> <li>総合的な学習の時間で、「色々な仕事があること」や「やりたい仕事のなり方」について学習する機会を設ける。</li> </ul>	<p>中学部3年生は、入試の前にお互いの良いところを伝え合い、自分の長所について考える時間を持った。1年生は、帰りの会などを利用して友達の良いところを見つける時間を持つようにした。また、弁論大会を通じて、生徒が自分と向き合い、自分の成長とやりたい姿について考え、発表することができた。</p>	B	<p>自分の良いところを根拠を持って言うことができるよう、様々な行事や学期末などの機会を通して考える時間を確保すると共に、キャリアパスポート等で取り組みの経過で良かったことなどを具体的に書き込めるようなものを用意する。(キャリアパスポートを活用した計画案作り)</p>
	(高) <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の客観視</li> <li>適切な目標設定</li> </ul>	<p>学習面と生活面、ともに自身を客観的に見つめたり、「やればできる」と言いながら、行動の伴うことが難しかったりする。</p>	<p>自分自身の現状を客観的に見つめ、進路目標を2つ～3つまで具体的に決定して他者に説明することができる。</p>	<p>職場や学校見学、職場体験学習をはじめとする体験的な学習を取り入れたり、聴覚障がい教員による自立活動の時間における学部横断的な指導を実施したりする。</p>	<p>1月実施の弁論大会では、自身の現状をしっかりと振り返り、進路について誠実に考えようとする生徒の姿が見られた。プライドが邪魔をして自己を大きく見せたい気持ちは少なからず出てくる生徒もいるが、現実を見つめて進路選択・進路決定に向けて前向きに取り組もうとする生徒が増えた。</p>	B	<p>生徒同士の評価や外部の方の評価を取り入れたり、動画や写真を用いたり、教師と問答をするなどし、自身を客観的に振り返る機会を設ける。個別の面談の機会を設けたり、折に触れて担任や授業にでる教職員で生徒の琴線に触れる話をしたりしていく。</p>
[徳]かなえる子	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の気持ちに寄り添いながら相談活動を実施し、保護者が必要としている支援の充実</li> <li>通級による指導できこえやことばの困難さを改善し、社会参加に向けての望ましい態度の育成。</li> <li>難聴の子どもの実態を的確に把握し、個々のニーズに合った支援や情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者がきこない・きこえにくいわが子とのかかわってコミュニケーションをとっていけばよい戸惑うことが多い。</li> <li>きこえにくさや発音のしにくさからくる困難さに気づきにくく、気づいても困り感を主体的に改善しにくい。</li> <li>初めて難聴児に関わる担当者が多く、支援方法や指導内容について悩んでいる。</li> <li>地域の学校から自立活動の内容について依頼があった場合、特別支援教育コーディネーターが対応している。</li> <li>校内自立活動コーディネーターが2人支援部に配置された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が子どもの実態を理解し、その上で見通しを持ちながら、成長を楽しみにできる。</li> <li>自らの課題や障がいに向け、主体的に改善しようと取り組んだり困ったときに必要な支援を依頼したりすることができる。</li> <li>在籍園や学校が本校と連携することで、難聴児に関する理解を深め、支援を工夫することができる</li> <li>地域の学校の自立活動に関する相談に対し、支援部内で連携しながら、助言や情報提供を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者研修内容項目一覧表から保護者が必要としている内容をアンケートにより選択し、保護者のニーズに沿った研修を行うことで、より子どもの実態を理解する。</li> <li>通級指導で行う自立活動プログラムを活用し、個々の課題に合った教材を工夫し、それをもとに学習を組み立てる。</li> <li>地域の学校からの自立活動に関する相談に対して、特別支援教育コーディネーターと連携して助言や情報提供を行う。</li> <li>本校にて、地域の学校向けに行う情報交換会や研修の中で、自立活動に関する説明や情報提供を行う。</li> <li>支援部だよりなど難聴児についての情報を在籍園や学校・保護者に提供し理解を図る。</li> <li>情報交換会をリモートで実施するなど、多くの学校が参加しやすい方法を工夫したりGoogleworkspaceを使用した情報提供を行ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談活動の中で、保護者が知りたい情報や困っていることについてタイムリーに情報をキャッチして、資料を提供し説明する時間を設けた。</li> <li>自立活動プログラムの内容をもとにした目標立てや学習内容を展開することができてきた。まだ、教科指導との境が曖昧なところもあるので、今後もより通級指導の内容を精選していく必要がある。</li> <li>難聴学級担任対象にGoogleワークスペースを利用した情報交換会を実施し、自立活動コーディネーターが校内で実践している指導について発信した。</li> <li>校内では毎月、支援部の掲示版で校内の各学部の指導内容などで支援部としての発信を行った。</li> <li>支援部だよりで今年度予定していた中部地区全ての聴覚障がいに関する補装具についての情報を提供することができた。</li> <li>手話普及コーディネーターの活動内容についても発信することができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が知りたい情報について、提供できる内容を年度当初しっかり話し合い、1年間の活動内容についてお互いに見通しをもってできるようにする。</li> <li>在籍校との支援会議の際に、目標について丁寧な説明と学習内容についての共通理解をしていくとともに、主訴に合った学習内容を計画していくようにする。</li> <li>校内の自立活動コーディネーターと連携を図り、個々の課題に応じた指導内容を考えていく。</li> <li>情報交換会に多くの担任に参加してもらえるように情報発信を工夫していきたい。</li> <li>支援部だよりで、支援部の活動内容を発信すると共に、補聴器や人工内耳の最新情報などについても積極的に情報提供を行う。</li> </ul>

年 度 当 初				評 価 結 果 (2)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
	(自立活動部) ・自立活動の指導を円滑かつ効果的に行うことができるよう、教育環境や教材教具、年間指導計画の整備と、専門性を高めるための職員研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発音、言語、障がい理解等に関する職員研修や勉強会を行っている。</li> <li>・自立活動の指導に関わる教材教具の整理に努めているが、データ教材の整理が不十分である。</li> <li>・教職員の異動などにより、聴覚障がい教育の専門性の継承が困難になってきており、個々の聴覚障がい児の課題やニーズにあった指導を一人一人の教員が提供することが難しくなっている部分があるため、教職員の自立活動指導のサポートとして校内自立活動コーディネーターが設置された。</li> </ul>	職員一人一人が、自立活動(聴覚障がい)に関わる専門性を高め、学校全体で教材、教具を共有、活用し、教育活動全体を通じて、自立活動を踏まえた指導にあたる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動の専門性を高めるための全体研修会を年2回、言語もしくは発音に関する内容を取り扱う自立活動勉強会を年3回行う。</li> <li>・学部を越えて、教材教具を共有できるように、教材教具と管理場所の一覧表を掲示する。</li> <li>・校内自立活動コーディネーターが教職員に年3回程度アンケートを行い、ニーズを把握していく。ニーズに応じて、各担任等と連携を図りながら、指導内容ははじめとした定期的な相談や情報提供をしたり、授業を補助したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定通り研修会を実施した。今年度の全体研修会では現役の教員、または教員経験のある方を講師として研修を行い、実践に生かせる内容となった。</li> <li>・実施し、活用された。データ教材については、教材が探しにくいなどの理由で十分には活用されていない。</li> <li>・年2回アンケートを行い、ニーズを把握して対応した。年度末にも再度アンケートを行い、次年度に生かしていく。各クラスの自立活動の学習内容を共有したり、教材を紹介したりしてほしいと年度途中でニーズが挙がったが、実施が難しかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も、授業にすぐに生かしやすい内容での全体研修会を計画していく。</li> <li>・データ教材の管理方法を部内で検討し、過年度のものも含めて整理した。データ教材の場所を再度周知し、活用につなげていく。</li> <li>・来年度、各クラスの自立活動の学習内容を共有する時間を、年に一度設ける予定である。また、自立活動コーディネーターが行った学習の内容や教材についての簡単な紹介を、回覧等で行っていく。</li> </ul>
	(進路指導委員会) ・キャリア教育や進路に関する情報を発信 ・実態や発達段階に合わせて、社会人として必要な力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路だよりを発行し、各学部のキャリア教育の取り組みや進路関係の行事、情報について発信している。</li> <li>・関係機関と連絡を密にとり、大学入試に向けての情報提供や希望進路に合った企業見学や実習を実施し、必要な情報が必要な生徒や保護者に伝わるよう努めている。</li> <li>・児童生徒が学習の記録を積み重ねることができるようキャリアパスポートを作成し、保護者にも見てもらうことで課題の早期把握や指導に活用している。</li> <li>・フォローアップを行い、卒業生の状況の把握や支援、職員への情報提供に努めている。</li> <li>・生徒・保護者・教職員対象に進路研修会を実施していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・職員・保護者の要望に応じて適切に情報提供をする。</li> <li>・進路室前の掲示等を活用して情報発信する。また、生徒のニーズに合わせた企業見学や実習の内容の充実を図る。</li> <li>・キャリアパスポートを作成して児童生徒が学習への取り組みを振り返れるようにし、課題の早期把握や指導に活かす。</li> <li>・卒業生のフォローアップの情報は学部回覧や進路だよりを活用して情報発信する。</li> <li>・先輩の話を聞く会や生徒向けの進路研修会の内容を指導や支援に活かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路だよりを発行し、各学部のキャリア教育の取り組みについて学校内外へ発信する。</li> <li>・生徒・保護者の進路に関するニーズを把握し、必要な情報を個別に提供する。</li> <li>・進路学習や実習でキャリアパスポートを活用し、課題や成果などを保護者と共有することで支援に生かす。</li> <li>・高等部が実施する「先輩の話を聞く会」や「進路研修会」の内容を教職員に周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路だよりを発行し、各学部のキャリア教育の取り組みや進路に関する行事の報告を記載することができた。</li> <li>・今年度は初めて大学説明会を本校で開催し、生徒、保護者、職員にとっても大学受験や入学後の生活のことについて情報を提供していただき、とてもよい機会となった。</li> <li>・職場見学では、鳥取大学やマルサンアイ鳥取株式会社を見学し、大学入試に向けての情報提供や企業見学を実施し、必要な情報が必要な生徒や保護者に伝わるよう努めた。生徒・保護者・教職員対象に実施することができた。</li> <li>・児童生徒の学習の記録をキャリアパスポートに記入し、学習の振り返りをしたり、保護者に見てもらって課題の把握や指導に活用した。</li> <li>・フォローアップについては、新型コロナウイルス感染症拡大状況下であり、令和3年度卒業生のみ行うことができた。課題のある卒業生の状況の把握や支援、職員への情報提供に努めた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路だよりを活用しながら、児童生徒、保護者、職員に向けて情報を提供していく。</li> <li>・今後も継続して、進学(大学、専門学校など)に向けての情報発信の充実を図る。</li> <li>・生徒、保護者、職員へのニーズに合った進路研修機会を計画する。</li> <li>・キャリアパスポートについては、各学部の児童生徒の実態に合った書式を検討していく。</li> <li>・フォローアップについては、対象卒業生の現状を把握し、課題のある卒業生の対応については今後も各関係機関と連携して進める必要がある。</li> </ul>

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
[体]やりぬく子 3. あきらめない体力・気力 ⑤からだを動かす楽しさを知り、からだづくりを生活の中に位置づける	(幼) のびのびと遊ぶ経験を通した、進んで体を動かそうとする気持ちの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことが好きである。</li> <li>生活リズムが不安定な子どもがいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな遊びや活動の中で、十分に体を動かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダンスや体操等のからだづくりの機会を設定し、からだを動かす楽しさを知って、生活の中に位置づけられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ちゃれきんぐ」の活動を参考に、サーキット運動をしたり、色おにやころがしドッチボール、大縄跳び等の活動をしたりした。ルールがわかり参加できるように、初めての年少児にルールを確認したり、実際に動いて示したりすることで友だちと楽しく体を動かして遊ぶことにつながった。</li> <li>「歌と体操」で楽しみながら体を動かす機会をもつようにした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「なかよしタイム」「歌と体操」や自由遊びの中で楽しみながら体を動かせるよう、活動内容を工夫し継続して生活の中に取り入れる。</li> </ul>
	(小) 目標にむかって、ひたむきに挑戦できる体力作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことを好んでいる。</li> <li>見通しをもって活動に取り組むことができ始めている。</li> <li>難しいと感じると、最初からあきらめがちになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標にむかって、ひたむきに挑戦する子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週月・水曜日の中間休憩は、サーキット等で個々の課題に合わせて体を動かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サーキットの時間の「リズムジャンプ」を年間継続した。後半は、時間いっぱい体を動かし、体力の向上に努めた。また、段階的に高度な技を提示し、子どもの意欲を損なうことなく個々の課題に取り組めた。</li> <li>駅伝大会の練習、ちゃれきんぐなど、年間を通して目当てに向かって挑戦する姿が見られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に体を動かすことには消極的な児童も見られる。今後は、縄跳びなど、一人でも、家庭でも取り組めるような活動を工夫する。</li> </ul>
	(中) <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の定着</li> <li>基礎体力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校に元気に通っているが基本的な生活習慣が定着しておらず、睡眠リズムが整っていなかったり、身だしなみを整えることが難しかったり、あいさつが上手くできなかったりする課題がある。また、学習場面等で集中が続けられず、50分間姿勢を保持することが困難な生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の年齢、段階に応じた基本的な生活習慣の定着を意識して生活する生徒。</li> <li>自分の課題を意識し、学習や活動を続ける基礎体力を身に付けようとする生徒。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣チェック表を活用し、生徒が課題を把握し、定着に向けて取り組めるようにする。(あいさつ当番などの活動)</li> <li>楽しみながらできる姿勢保持、集中力の向上につながる活動を帯自立活動に設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>養護教諭に協力を得て、食事のマナーや咀嚼の必要性などについて話を聞く時間を設けた。合わせて咀嚼検定などを実施することで、給食でしっかり噛むことを意識するようになった生徒もいた。</li> <li>帯自立で実施している体幹トレーニングを冬休みに取り組むようにした。チェック表を持ち帰ることで、休み中トレーニングに取り組む生徒もいた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>睡眠、食事、整理整頓、衛生面など課題がそれぞれにあるため、自分の目標を決め、家庭と連携しながら少しずつできることを増やしていけるようにする。</li> <li>短時間でも取り組める運動や遊びのメニューを提供し、学級や家庭でも取り組めるようにする。</li> </ul>
	(高) 手話パフォーマンス甲子園への参加 ⑤からだを動かす楽しさを知り、からだづくりを生活の中に位置づける	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間と力を合わせて一つの事を成し遂げる達成感や充実感を味わったり、一つのことをあきらめずにやり抜いたりする経験が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や部活動を通して練習した成果を本番で発揮し、達成感や充実感を味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜこの学習をするのか、なぜこの取り組みをするのか、導入の段階で動機付けを丁寧に行い生徒の意欲を喚起する。学習経過や取り組みの途中経過を周知したり掲示したりし、取り組みを客観的に振り返ることができるようにする。</li> <li>部活動時間を確保する。</li> <li>中国地区の聾学校生徒の仲間の中で、競い合う機会を設定し、それに向けて取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話パフォーマンス甲子園への参加を通して、生徒たちは仲間と力を合わせて1つのことを成し遂げる達成感や充実感を味わうことができた。高等部の教員で手話パフォーマンス甲子園に向けたチームを作り、生徒たちが意欲的に取り組むことができるような仕掛けをしながら学習を進めた。また、学習過程や取組の経過を周知したり掲示したりし、取り組みの啓発や振り返りをできる環境を整えた。</li> <li>中国地区ろう学校体育大会卓球の部と陸上の部に参加した。他校の生徒と対戦することで自分の力を知ることができ、より上手くなるためにがんばろうとする意欲に繋げることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、各種大会や部活動等に参加する。</li> <li>引き続き各イベントごとに教職員で担当チームを作り、一丸となって指導にあたる。</li> </ul>
	(生活安全部) <ul style="list-style-type: none"> <li>学校保健計画、学校安全計画、学校給食計画を基にした、健康で安全な生活習慣の徹底</li> <li>健康維持を意識した体力づくりに取り組む意欲を高める日常的に幼児児童生徒の実態に応じた指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校保健計画、学校安全計画、学校給食計画を基にした、心身の健康や健康的な食生活について様々な取り組みを計画し指導を行っている。</li> <li>体づくりのもとになる栄養について学ぶ機会が少なく、体づくりへの意識について個人差が大きい。また、病気やけがの予防意識をさらに高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗いうがいなど、病気の予防について必要な知識があり、基本的な生活習慣が身につけている。バランスのよい食事を意識して給食を食べようとしている。</li> <li>けがの予防など安全意識が高まり、不注意によるけがが減るとともに、継続した体力づくりの意識の高まりがみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校栄養職員や学級担任と連携し、栄養について話をする機会を作るとともに、給食週間はもとより、日々の給食指導の中で、栄養を意識してバランスよく食べることの大切さを伝える。</li> <li>保健室来室者へけがの発生等の状況や原因を聞き取り、個別・全校で保健指導を行う。</li> <li>生活アンケートに体を動かすことに対する意識に関する項目を設け、実態を把握する。継続した体力づくりについて実態に応じた指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画に沿って指導を行った。</li> <li>学校栄養職員や主事と連携を取り、栄養や給食の歴史について話をする機会を設けた。実際に話を聞けなかった学部にはDVDの貸し出しができるようにした。</li> <li>保健だよりや給食献立表などを活用し、バランスのとれた食事や体力作りについて保護者に啓発を行った。日々の給食や体育の時間はもとより、健康教育参観日の機会も活用して、心身の健康や健康的な食生活について意識を高め実践につながるよう指導を行った。全体での話の内容は理解している生徒が多いが、実践については個人差が大きかった。</li> <li>けがの予防など安全に過ごすためのポイントについて伝え、意識の高まりがみられた。後期、けがによる受診は無かった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>単年度の取組に終わらないよう、次年度も継続した取組を行う。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の規則が緩和される見込みのため、交流給食や学校栄養職員とともに行う栄養指導などをする機会を増やし、健康な食生活に向けての知識を高める。</li> <li>体力作りの習慣化や日々の生活リズムについて、個々の実態に即した指導や助言ができるよう、生活の実態調査を行う。</li> </ul>

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	改善策
4. 業務改善 ⑥子どもと向き合う時間を充実するための業務改善	(総務) ・業務の見直しと削減	業務内容の幅が広く、業務の見直しと削減による業務効率化を進める必要がある。	業務内容の精選、効率的な運営が進んでいる。	・業務内容の検討・改善やIT活用をしながら業務負担を軽減する。 ・総務部員同士の情報共有の徹底を図りながら、業務の効率化を基本とした改善を進める。	今年度は業務内容の変更があったが、部員同士で連携しながら効率よく事業を進めることを心掛けた。また、業務改善として、外部郵送先の見直しを行ったり、メール送信の方法を取り入れたりしながら担当の負担軽減も目指して取り組んだ。成果としては、他の分掌の協力を得たり、事前の情報共有を徹底したりしたことによって様々な事業を円滑に実施することができた。	A 前年度の業務の引継ぎはポイントを明確にし、丁寧に行う。
	(働き方改革) ・時間外業務時間1か月45時間以内、年間360時間以内の徹底 ・会議のスリム化と効率化	・時間外業務時間1か月45時間以上の教職員が複数人いる。 ・職員会をはじめとする諸会議が多く、多くの時間が費やされている。	・職員の8割以上が、時間外業務時間1か月45時間年間360時間以内で業務を行っている。 ・会議の内容や回数が検討され、時間内に終了し、幼児児童生徒と向き合う時間が確保されている。	・早よ帰らーDAYを全体で月1回、各学部でも1回設定し、終了時刻の徹底を図る。 ・教育委員会の示す学校業務カイゼンプランや方針等の共通理解を図る。 ・職員朝会や終礼、主事会の回数や持ち方を検討し、共通理解と改善を図る。 ・意識を高めるための掲示の工夫をする。	・早よ帰らーDAYを全体で月1回、各学部でも1回設定し、午後6時までの退勤が概ねできている。 ・超過勤務時間への意識を高めるため、「8のつく日」をカンパニー手入れの日と設定したり、超過勤務時間の数字を個別に配布したりしたこと個人意識が高まり、成果が見られ始めている。 ・休日出勤について届け出を実施することで、休日出勤が減少してきている。 ・反省職員会を持つことで学部、分掌の今年度の反省と課題が整理され、来年度の業務改善へつなげると考える。	B ・早よ帰らーDAYを全体で月1回、各学部でも1回設定を継続する。 ・会議時間の厳守や休憩時間の確保等を徹底する。 ・年度末や年度初めにスムーズに業務ができるようわかりやすい引き継ぎの工夫をする。
	(円滑な学校運営) ・凡事徹底 あいさつ 時間厳守	・日々の多忙感や疲労感からか、職員や児童生徒の朝のあいさつは少し元気がないように感じられる。 ・休憩時間が5分しかなく、開始と終了時刻が曖昧になっている。	・元気よくあいさつをしたり日中も廊下ですれ違うときには会釈をしたりする職員が増えている。 ・時間を意識しながら行動できる職員や児童生徒が増えている。	・あいさつや時間厳守の声かけを行う。 ・掲示を工夫し視覚的にも意識できるようにする。	・個々が意識して、挨拶をしたり時間厳守を心がけたりするような様子が見られるようになってきた。 ・「あいさつ検定」等、学部の活動として取組んだり子どもたちが意識して取り組んだりできるような工夫を行った。	A ・活動の成果が視覚的に見えるように工夫する。

評価基準 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだまだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)